



NPO 法人
ベーシックライフインフォメーション協会
会報第15号

**台湾の「公視」で
「空を拓く」放映決まる**

台湾の「公視」で 「空を拓く」放映決まる

郭茂林さんの構想力

建築家 安藤忠雄

郭茂林さんは、その生き様を通して、次の時代に生きていく人たちに「可能性は自ら切り開くものだ」という強いメッセージを残した。郭茂林さんのドキュメンタリー「空を拓く」は、その人生に深く切り込んだ内容で、とても面白かった。故国台湾を後にして、日本で自らの地位を確立するのに随分苦労されたことと思う。常に目標を持って、新しい世界を切り開きながら、大変難しいことに挑戦され続けた。自分の仕事に自信と責任感を持たれていたから、郭茂林さんの笑顔は、いつも魅力的だった。40年前、林昌二さん、西澤文隆さんらと一緒に台湾を訪れた時、案内して下さったのが郭茂林さんだった。初めてお会いした時の印象は、夢を追い続ける苦労人。しかし仕事に対して決して妥協を許さないその厳しい姿勢は、会話の中からもひしひしと伝わってきた。

女。65歳。女、歩行障害、認知症、うつ病、

郭茂林という人

隣り合う国と国の交流にはさまざまなことがある。山もあれば谷も崖もある。そうしたなかで、絶えず起き、続けるべきは科学と技術の交流に違いない。科学と技術には、政治やイデオロギーや社会的なことを越える本質が秘められているからだ。東アジアにおいて、こうした交流を体現した人物を探すなら、いろんな分野にさまざまな人が隠れているが、誰の眼にも見える成果を挙げた人となると、やはり郭茂林を第一としていいだろう。1921年、日本統治時代の台湾に生まれ、台北科学技術大学を出てから日本に渡り、第二次世界大戦中の困難な中で、若き日の丹下健三ほかと切磋琢磨している。

建築という総合的領分は、構造や材料やデザインや歴史などさまざまな分野からなるが、そんな中で郭青年が、師の岸田日出刀教授

必ず目指すべきものに焦点が合う時が来る。それまで頑張りなさい。」とっこり笑って下さった。その笑顔は今でも忘れられない。いわゆる地震国である日本において、高層建築の計画は、技術的に大変難しいと言われてきた。そんな中、霞ヶ関ビルの竣工は、日本に新しい時代が訪れたことを感じさせた。材料、構法、法律に至るまで、緻密な検討が繰り返された。新しい技術の導入によって実現した霞ヶ関ビルは、その後の高層建築の礎（いしづえ）であり、同時に日本の20世紀を代表する建築の一つとなった。

郭茂林さんはスタートの段階から深く関わり、プロジェクトを推進した。この壮大な計画を、最初に構想されたことに感銘を受けた。時は1964年、東京オリンピック開催の年。この頃日本は、敗戦から立ち上がり、経済成長の真っ只中にあり、活気に溢れていた。霞ヶ関ビルの存在は、日本が世界を目指して飛躍するその象徴のようで、一般市民から技術者まで、見る人全てに強烈なインパクトを与えた。

昨年、台湾を訪れ、李登輝さんと対談した

の下で学んだのは、どんな建築をどんなやり方で作るかという計画画の分野だった。この分野は、都市と建築の中での客観的な人と物の動きの分析を基本とするが、それだけではなく、人の心の動きや人と人の繋がりについての深い洞察を不可欠とする。この経験が、戦後、役に立つ日が来た。日本に初めての超高層オフィスビルを建てることになり、構造の武藤清教授をはじめ東大の建築の各分野の教授が集まる。みな一国一城の主である。そうした中で、まとめ役を果たしたのが郭茂林だった。霞が関ビル建設の中核をなしたのはKMGという組織で、Kは霞が関、Mは施主の三井から来ているが、カクモリングループと建築界では語られていた。建築学に詳しいことに加え、温厚で我慢強い人柄も日本初のプロジェクトのエンジン役

工学院大学教授 東京大学名誉教授 藤森照信

には欠かせなかつたに違ひない。1968年(昭和43年)、霞が関ビル完成の後、日本各地の超高層ビル建設と都市改造に成果を挙げ、さらに台湾において、1982年、台湾初の100mを超える高層ビル「台湾電力ビル」の設計かつ建設指導をし、引き続きさまざまな計画に参加し、台湾都市の近代的改造に尽力している。

超高層ビルは、現在、どの国でも大きな問題に直面している。人間にとってふさわしいビルとは都市とは、ただ高密度であればいいわけではない。それでは「情報の工場」に過ぎない。これからの中高層がどんな方向に舵を切るか、2012年4月に没した郭茂林は、東アジアの天上から、あの温かい視線でじっと見てゐるに違ひない。

第三回オール台湾デーを開きます

日本の超高層ビル第一号の完成、満五十年を記念する事業のいろいろ

日時 平成三十一年十月七日（日）
午前十時～午後五時 参加費無料

会場 ココネリホール
(台湾デーの会場すべて)

交通 西武池袋線、西武有楽町線、副都心線、地下鉄大江戸線

(目印・1階スーパー通り、2階エレベーター、3階ホール) 徒歩2分

1 ドキュメンタリー映画上映会

「空を拓く建築家・郭茂林という男」

上映 開始時刻 午前十時三十分

2 ニュートリション事業への協力

(希望者への試食提供と健康診断)

現在、伊藤忠と国立研究開発法人

医薬基礎・健康・栄養研究所（国研）

が中心になって展開している福島

ニュートリション施設構築事業の都市

部の受け皿として当協会が協力します。福島県田村市石森小学校に展開してい

るものを一部練馬で試みるものです。この事業は最高レベルの健康診断と

問診の体験を受け、健康的な弁当を試

十一月以降の行事予定をお知らせします。

台湾人戦没者慰靈碑慰靈とハイキング

日時 十一月三日（祝日）
午前九時三十分集合

集合場所 JR青梅線 奥多摩駅前
ハイキング 峰谷橋から慰靈碑まで往復徒歩約一時間（高齢者）

慰靈 正午 慰靈碑前でおこなう。

予約必要

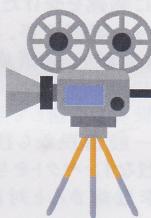
慰靈 正午 慰靈碑前でおこなう。

ドキュメンタリー映画上映会

日時 平成三十一年三月 日にち未定
題名 「空を拓く建築家・郭茂林といいう男」

ドキュメンタリー映画上映会

日時 平成三十一年三月 日にち未定
題名 「空を拓く建築家・郭茂林といいう男」



長年にわたる協会活動支援者に感謝状を贈呈しました。

協会創立十年を期し長年に亘り協会に多大の支援をしていただいた方に感謝状が総会の席上理事長から贈呈されました。

下田長四郎氏
栽培した台湾野菜、日本の野菜

故人になられたので葬儀時飾る

江波戸つぎ氏
理池袋櫻蘭の手作りによるビーフ

食します。希望者のみ、無料です。
当日、説明をして希望者の申し込みにより人数限定でおこないます。

食します。希望者のみ、無料です。
当日、説明をして希望者の申し込みにより人数限定でおこないます。

集合場所 JR青梅線 奥多摩駅前
ハイキング 峰谷橋から慰靈碑まで往復徒歩約一時間（高齢者）

慰靈 正午 慰靈碑前でおこなう。

予約必要

慰靈 正午 慰靈碑前でおこなう。

ドキュメンタリー映画上映会

日時 平成三十一年三月 日にち未定
題名 「空を拓く建築家・郭茂林といいう男」

本協会の構成員（会員及び賛助員等）

平成30年7月1日現在

理事長 田代實範 新城 肇

理事 加藤美智子 児玉 治

理事 中村和利 錢 妙玲

監事 上里佑子

監事 岡村悦子 松山達郎

映画製作委員 銀川添ミチ子

映画製作委員 郭純

映画製作委員 加藤美智子

映画製作委員 竜中治憲

映画製作委員 堀伸博

映画製作委員 仲里建良

映画製作委員 金子容子

映画製作委員 田代實範

映画製作委員 岩羽展維

映画製作委員 岩村悦子

映画製作委員 江波戸つぎ

映画製作委員 尹世玲

西川満は戦前台湾で詩作、小説などの文芸書、雑誌「文芸台灣」や「媽祖」台湾民芸に関する版画等多くの作品を発表して台湾文壇に大きな影響を与えた作家です。作風はロマンチズム、耽美主義の文学です。

協会は平成24年早稲田大学、台湾の真理大学の協力を得て早稲田大学で「西川満展」の開催を進めました。しかし準備が整わず開催を断念しました。それから七年関係者の努力により福島県で開催されることになりました。

協会は開催に参加し祝意を表します。

開催期間 平成三十一年七月二十二日から八月十九日
会場 福島県立博物館

「西川満展」が福島県会津で開催

西川満は戦前台湾で詩作、小説などの文芸書、

雑誌「文芸台灣」や「媽祖」台湾民芸に関する版画等多くの作品を発表して台湾文壇に大きな影響を与えた作家です。作風はロマンチズム、耽美主義の文学です。

西川満は戦前台湾で詩作、小説などの文芸書、

雑誌「文芸台灣」や「媽祖」台湾民芸に関する版画等多くの作品を発表して台湾文壇に大きな影響を与えた作家です。作風はロマンチズム、耽美主義の文学です。

特定非営利活動法人
ベーシック「ファインフォーメーション協会
会報第15号
発行日 平成三十一年七月二十日
発行所 東京都練馬区石神井町
六一十二一三
電話 ○三一三九九六一〇一七七
発行人 田代 實範
岡村 悅子氏
加藤美智子氏